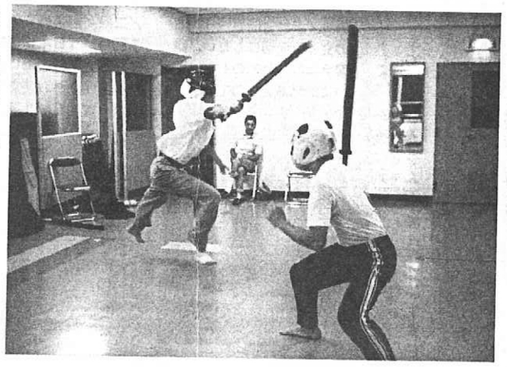
月刊剣道日本 1992 9

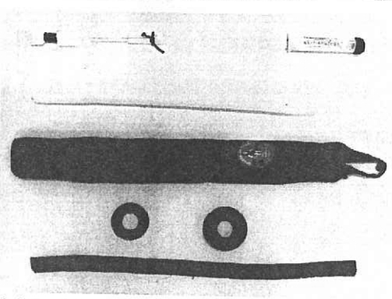
ルポ 3

スポーツチャンバラ

# より実戦性の強い、新分野の単純な面白さ



記者も体験取材したが、剣道の枠から離れられないことが敗因か、中学生にいいように打たれた



小太刀を分解。上段の芯を二段目のソフト材に通し、黒布で覆う。武具は田邊氏の特許品。安全性の問題から市販はされていない

8月2日（日）、神奈川県立武道館において全国少年スポーツチャンバラ大会が開催された。会場には幼稚園から中学生までの少年剣士が集い、柔道着、空手着、体育ジャージなど思い思いのいでたちで、剣技を競い合った。

このスポーツチャンバラは、最近、テレビや雑誌で取り上げられているのでご存じの読者も多いと思うが、要するに、かつて少年時代に丸めた新聞紙で叩き合ったチャンバラを、近代的に発展させ、ルールの中で争うもの、と考えてよい。長剣と呼ばれるものが剣道の竹刀に相当するもので、ほかに小太刀、槍、短剣、杖が使われる。武具の選択によって、戦いのシチュエーションを広げられる面白さも備えている。

競技人口は年々加速度的に増えており、現在全国で約4万人、海外での普及度も確実に伸び、実態調査こそ行なわれていないが、潜在人口は数万人になるといわれている。

そもそもスポーツチャンバラは護身道の延長で発展したもので、別名は護身剣道。創始者・田邊哲人氏は、このスポーツチャンバラについて次のように語っている。

「剣道では先を重んじ、先の技を決めることをよしとされています。僕はかつて、護身道のほか銃剣道の指導に携わっていたのですが、とくに自衛隊での銃剣道は、前に攻めていかず、止まったり後ろに下がったりすると上官に怒られる。自分の身が危険にさらされてもとにかく前に出ればその勇気を認められる風潮があるんです。人間形成ではなく兵隊形成ということで納得させられてしまうんですが、とにかく先に攻撃しろという精神教育は、今の世の中ではグローバル性が感じられません。剣道における先をとって攻めろ、という風潮も同じ。今の時代は護身、正当防衛こそあれ、先に手出しすることは、刑法にもひっかかる。護身術では後の先を重視しており、スポーツチャンバラでも、より実戦に近づけながら、相手に打たれないことを基本にしているんです」

スポーツチャンバラのネーミングは創始者・田邊哲人氏によるものだが、チャンバラという視点はこの競技においてはまさに的を射ているといえる。名称こそ軽い感じがするものの、実態は武術を研究して構築された競技であり、その明確なルールによる競技性や、公認審判員制導入による審判員の質の高さなど、現代剣道の世界が学ぶべき点もある。

さて、記者は、田邊氏ご自身が指導にあたる神奈川県の道場で体験取材を敢行した。この日道場に集まったのは10代～20代の若者・約20人。下は中学生からいる。東京・馬込東中学校の生徒も参加していたが、同中学はスポーツチャンバラを部活動として行なっているという。武具は特殊加工されたソフト素材でできており、安全性を極めている。防具は空手で使うような、顔前がプラスチック加工された面のみ。叩かれても痛みがほとんどないため、あとは胴衣しか着用しない。面は軽くて視界が広く、異質な感じはしなかった。

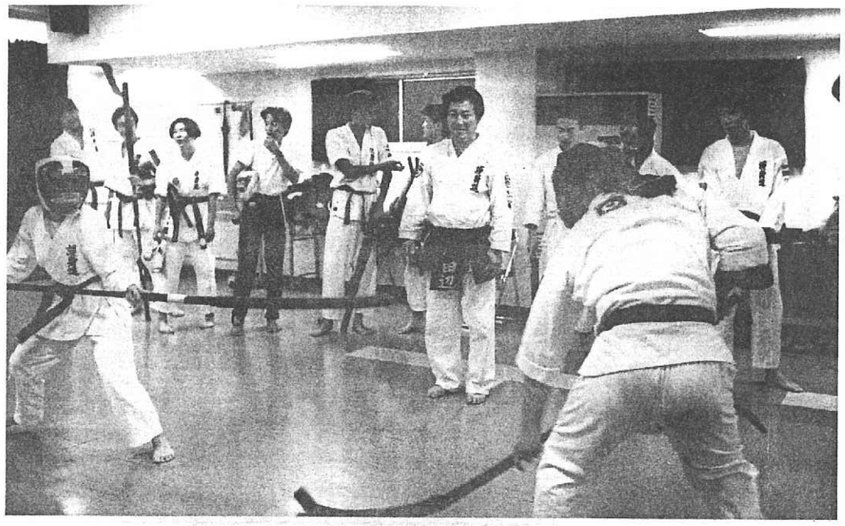
対戦相手は中学生で、記者と同じく長剣を使用。何本勝負という枠は設けずに戦ったが、剣道とは勝手が違い、剣道の構えや動きで攻めてもいいようにやられてしまう。とくに足（すね）の攻撃への反応がしにくかった。こちらも無駄に跳び込みメンに出るのはやめ、構えも両手から片手に持ち換える。自然にスポーツチャンバラのスタイルになってしまうのである。記者の力量不足もあったが、この土俵上で、剣道の技だけで太刀打ちしようとするのは、やや困難のような印象を受けた。

道場の門人に、あるアンケート調査を実施してみたが、28名回収したうち、剣道の経験者は10名、そのうち今も剣道を続けているのはわずか3名という結果を得た。途中でスポーツチャンバラの道だけに変えるのは、その単純な面白さ、分かりやすさが魅力を膨らませるのか、彼らの元の指導者が剣道の魅力を伝えられなかったのか……。剣を用いた格技という点で、剣道とこの世界は非常に似通っている。が、先と後、打突部位など、違いも大きい。スポーツチャンバラは、今後、さらに注目したい分野である。

撮影／池田恵美子







護身術、銃剣道のほか、田邊氏は過去、剣道をはじめ柔道、居合道、抜刀道などあらゆる武道の経験を持ち、また、日本刀の知識も深い

## アンケート集計結果

（28名の回答からいくつか抽出した）

1、スポーツチャンバラと剣道の違いについて

●剣道は子供たちがイメージしている剣道になるまで時間がかかる
●持ち方、足の向きなどに決まりがなく、その日に始められる
●体の小さい者には長物や二刀などハンディをつけることができる
●剣道はより速く、まっすぐ打ち、打たれても速い方が勝ちになるが、スポチャンは打つことよりも打たれないこと、勝つことよりも負けないことという根本的な違いがある
●打てるところが多い
●基本的にすべて違う
●形式ばっていない
●形がない。構えが自由。打つところが自由
●世界最強を目指せる新スポーツ
●重い防具をつけないでいい
●規則が少ない
●実戦に近い

2、スポーツチャンバラの一番の魅力

●精神と自由さ
●誰でも思い切り叩ける
●防具をつけなくていい
●いつでもどこでもできる
●大人を倒せる
●子供のときの夢がある
●実戦的であり、全身運動ができる
●いろいろなもの（二刀、槍、長刀、棒）と戦えて楽しい
●おもしろい
●かっこいい
●自由さと厳しさ
●いろいろな武道の形を組み合わせることによって、独自の構えを作り戦うことができる
●スピード感
●みんなが一緒にできる
●のびのび楽しみながら健康な生活ができる